



関中央ロータリークラブ

2016-2017 WEEKLY REPORT



例会日 毎週木曜日 18時30分

例会場 関観光ホテル（関市池尻91-2）

事務局 関市西本郷5-2-53 TEL0575-24-7332・FAX0575-23-5278

会長：石原 妙生 **副会長**：川村 紳一 **幹事**：波多野 篤志 **クラブ会報委員長**：吉田 和也

2016~2017年
国際ロータリー会長
ジョン F. ジャーム

ロータリーで何か発見を！

2016~2017年度 関中央RC会長テーマ

四つのテスト
・真実かどうか
・みんなに公平か
・好意と友好を深めるか
・みんなのためになるかどうか

本日のプログラム 第1866回例会 2016年7月28日（木）

C. A 新年度活動方針 / 担当 会長・幹事

前例会の記録

第1865回 2016年7月14日（木）

ガバナー補佐によるC. A/担当 会長・幹事

*ロータリーソング「我等の生業」斉唱

*ゲストビジター紹介

東海北陸道グループガバナー補佐 横山隆一郎様

各務原ロータリークラブ 会長 小林 幹男様

各務原ロータリークラブ 幹事 河野 春男様

*会長あいさつ 石原妙生会長

本日7月14日は本年度の記念すべき第1回の例会です。



今日がどのような日かと言いますと、明治4年には廃藩置県が行われた日ということで、江戸時代の藩が無くなり県になった日です。又、医学では「7・1・4」で内視鏡の日だそうです。「何々日」がいろいろあるものですね。

さて、本日は横山ガバナー補佐をお迎えしての例会ということで、各委員長さんより今年度の事業計画を発表頂きますので、私からもクラブ全体の事業計画や「方針・目標」などを申し上げたいと思います。

まず方針を4つ上げます。

- 1.「充実した例会作り」：親睦を図りながら出席率を上げる。
(会員の話・IGM 的例会・持出し例会等)
- 2.会員増強を担当委員会と役員で目標を立て、継続的に行う（年4回）
- 3.地区の行事に会員が積極的に出席をする（リーダー育成）
- 4.計画した事業をメディアにて広報し、ロータリーの認知度を上げる。

次に主な事業を2つ上げます。

1.四十周年記念事業です。中身の一つ目は、環境について考えてもらう冊子の配布、その冊子の感想・絵のコンテストの開催。二つ目は式典、三つ目に記念誌の発行と、一年を通じての事業になります。成功させましょう！

2.十二月に予定しています、今回で二回目となる関商工の生徒と台湾景文高との台湾での交流です。友好クラブの台湾南隆 RC との懇親もありますので、担当委員会だけでなく他の会員の皆さんも是非参加を頂きたい。最後に目標を申し上げます。

- 1.例会の出席率を過去3年間より上げる。

3年平均 85.6% (メークアップ含む)

2.会員増強目標 「3名」とりあえず前年度の数まで戻す。

3.今年度のテーマである「ロータリーで何か発見を！」をして頂きたい。以上で終わります。

*東海北陸道グループガバナー補佐

横山隆一郎様ご挨拶

私は今期東海北陸道グループのガバナー補佐を仰せつかりました各務原ロータリークラブの横山隆一郎で御座います。どうぞよろしくお願ひします。

まず初めに当クラブ会長と幹事が同行してくれています。色々な会場に出席することによって大変刺激になりますし、勉強になると自主的に計画を組んで同行してくれることになりました。前向きな若い中心になっていってくれる会員を非常に喜んでおりますし、誇りに思っておりますし、期待しております次第でございます。そういった前向きな成果があらわれまして、今期既に4人新入会員を迎えることができました。関中央RCも20年ぐらい前は80名ぐらい、今は30名前後ということで、わがクラブもそういう会員減少の経緯を辿りました。そういったことも後からお話しさせて頂きたいと思ひます。今年度1年よろしくお願ひ致します。

*クラブ奉仕委員会

川村紳一委員長

【基本方針】クラブ奉仕部門の各委員会の事業及び活動計画を把握し、各委員長との意思の疎通を図り、円滑なクラブ運営に努める。

【事業計画】

- 1、各委員会の事業が円滑に運営される様に、連絡・調整を図る。
 - 2、各委員会の行事に多数の会員が参加できて、有意義な奉仕活動になる様に努める。
 - 3、例会・会報を通じて事業計画の連絡と参加を呼びかける。
 - 4、各委員会の活動計画に対して、必要に応じて委員長会議を開催する。
- 以上の4項目の事業計画をたてました。



釧田ガバナーも「思いやりの心」「助け合いの心」でクラブを潤していくのが、「クラブ奉仕」であり、ロータリー活動は、例会出席から始まり、親睦を深め、奉仕の心を高めるのが重要であり、例会へ出席してこそ奉仕の実践が出来ると言われております。地区活動方針テーマ（最も出席するもの最も報いられる）を掲げられました。

当クラブの石原会長も、就任挨拶で「ロータリーで何かを発見を！」をテーマに掲げられ、例会の内容を吟味し、親睦と中身の充実が図れる様工夫し、例会出席率の向上に努めると言われました。クラブ奉仕委員会の事業計画内容も、会長の方針に沿って会員全員が参加でき、クラブが活性化する様に努めて行きたいと思ひます。皆様のご協力をお願いします。

*職業奉仕委員会 古田育則委員長

事業計画については年次運営計画書に書いてある通りでございます。今日は事業計画を書いた経緯をお話しさせて頂きたいと思ひます。去る4月17日に高山で地区協議会の研修会がございました。その時お話を聞いている中でほとんど全てがそうだなあと納得が出来、理解ができ戻ってきたわけでありまして。その内容については後日、例会があったこの場所で発表をさせていただきました。ただその中で正直申し上げてこの話を関中央RCで計画にしようと思ったものは一つもありませんでした。ということで、基本方針は全職業における道徳的水準を高めるための事業を推進する。事業計画としては1.職業奉仕月間に卓話を実施する。2.親睦活動委員会の事業に協力する。3.社会奉仕委員会と協力し、奉仕活動を実施する。という当たり障りのない感じの事業計画になってしまいました。しかし、最近改めて職業奉仕とは何かと考える機会がありました。職業奉仕とは職業を通じて社会に奉仕すると理解しております。みなさん殆どが会社の経営者でありますので、会社が健全であることがまず必要であろうと、会社が健全であれば、社員の給料払え、社員はそれにより社会奉仕ができる。利益ができれば納税を払うわけですので、そういう意味で社会に貢献できるということを考えた場合に、会社が安定して健全であることがまずは必要であって、そのことが社会に奉



仕することになるんだなと改めて思いました。ロータリークラブとは会社がより健全に成長するために何か一助になるようなそういう計画がないのかなと考えてみました。例えばそれぞれみなさん会社を経営するについては、悩み事もあり難しい困ったこともあると思います。そういうお話を例えば例会などでお話合いが出来ると思わないお話を聞くことによって「僕はこうやって解決した」「僕も同じように悩んでいる」というお話がでるとそれが非常に参考になるのではないかと考えておりました。問題ばかりでなく「こうやったらうまくいきましたよ」ということも聞くと参考に来るのではないかと思います。研修が終わり、例会の報告の時にも少しお話ししましたが、創業者の私の父は会社の社是を4つのテストから引用して社是を作っております。一つでもロータリーから何か得るものがあるといいのかなと思います。また、それぞれの会社の問題を話し合う場を設営ができればとも今考えております。

*社会奉仕・環境保全委員長

神谷秀幸委員長



社会奉仕、環境保全委員会で一番重点を置きたいのが地域の人達と一緒に行動をしよう、要するに地域の人たちにロータリーをよく理解してもらおうということです。我々が地域の人達の行事を理解することも大切ですが、地域の人達にロータリーってどんな活動をしているのかをよくわかってもらおうということを基本に考えております。

今年度40周年記念事業がありますが、その40周年記念の一番のテーマは環境問題ということで、全面的に支援・協力させてもらおうと思っておりますので40周年記念事業の委員の方にはよろしくお願い申し上げます。

事業としましては、11月12日長良川流域連携クリーン作戦例会は長良川流域白鳥から羽島までの流域で一斉に各自自分たちのポジションで清掃活動をするということで、関中央RCとしては関観光ホテルの前の清掃活動ということで例年スポーツ少年団の子供たちと一緒にクリーン作戦をやっていくということです。また市役所の環境衛生部の人達にも声をかけ一

緒に行く予定です。

11月6日、里山の森林整備では植樹をして、その後一緒に食事の準備をして歓談しようということになっております。

平成29年6月4日には13年目になりますが、長良川環境レンジャーと一緒に水質調査と清掃活動しております。関商工のインターアクトの生徒、関スポーツ少年団の子供達、市役所の環境衛生部の人達、聖徳学園の学生たちと一緒に活動していきたいと計画しております。

よくロータリーの話を聞きに行った時に言われるのが、「ロータリーは5年間たったら手を引いて事業については任せる」と言われますが、我々がやっていることは10年以上の事業が多いと思います。

ただ、関商工や関スポーツ少年団などのメンバーは年々変わっております。5年経ってやめてしまったら、せっかく積み立ててきたことがゼロに戻ってしまうのではないかと懸念しております。また一から作り上げるためにはどれだけの労力が必要であろうかと考えてしまいます。ロータリーの研修に行くとそんな話をされますので一言だけ申し上げさせていただきました。

*国際奉仕委員長

山田文夫委員長



【基本方針】国際奉仕活動を通じて世界平和に貢献し、国際間の理解と親善を推進できるよう意識高揚に努める。

【事業計画】

1.台湾姉妹クラブと共に青少年交換委員会の活動を積極的に活動する。特に今年度は関商工等学校の生徒を派遣する年度にあたり多くの生徒と共に訪問したいと思っております。

2.ロータリー財団、米山記念事業に積極的に協力する。

3.姉妹クラブと協力して国際奉仕活動の模索及び計画をする。

このように計画を立てましたが、事業の中心は関商工高等学校の生徒の台湾派遣になると思っております。既に11名もうしこみがあるそうです。時期は12月で了解を頂いていますが、日程は決まっていません。夏休みが終わる9月の早い時期には日程を決めたいと思っております。決まり次第皆さんにもご案内しますので多くのご参加

お願いします。

*ガバナー補佐様による助言及び総評

各委員長さんの熱意のこもった気持ちがひしひしと伝わって参りました。きっと成功するだろうと感じた次第であります。指導とか助言というお話ですが、今私の基本的なスタンスを講評にかえさせて頂きたいと思えます。

さて、劔田ガバナーは私たちガバナー補佐に対して大きな期待をされております。各クラブの課題や活動に対して指導や助言を積極的に行い各クラブがより活性化するように行動してほしいと言われております。しかしながらわたしはその能力も意思もありません。

私の基本的スタンスは課題や悩みを共有して共に悩み、共に考え、共に行動していくことであります。今のR Iは基本的にトップダウンの姿勢です。私はどのような組織体でもトップダウンでは良くならないと考えております。組織が活性化する原動力は個人のモチベーションが上がることこそが重要であります。

ボトムアップこそが発展の原動力であると固く信じております。

会員一人ひとりの意識がクラブを動かし、会長、幹事さんのリーダーシップが成果を生むと考えております。とはいうもののR Iの方針などの情報にも触れないわけにはいきませんので少し触れさせてもらいます。ご承知のように16年規定審議会において大きく変更されました。これに伴いクラブの定款も変更する必要があります。更に細則も変更する必要がありますが細則についてはあまり急ぐ必要がありません。むしろ重要なのはクラブ内で十分に協議して全員の合意の上で決定することだと言われております。

R Iの方針に対して批判や抵抗感を抱いているロータリアンは多くあります。ピチャイ元会長などもロータリアンの本来の道を外れてしまった事とロータリアンの行動規範を削除したこと、中核的価値観、すなわちビジネス及び専門職での高い倫理基準の促進という理念を崩壊していると批判しております。抵抗感を抱かれている方は多くありますがパストガバナー服部先生もその一人です。

ロータリーは命令一下、全世界のクラブが挙って寄付と人道奉仕に邁進することになると危惧してみえます。

劔田ガバナーは何事にも原理原則がある。これは時空に関係なく見失ってはならないことである。ロータリーの原理原則は「思いやりの心」「助け合いの心」であると力説しておられます。この精神でクラブを潤していくのが「クラブ奉仕」、仕事に従事するのが「職業奉仕」、地域社会、国際社会を潤していくのが「社会奉仕・国際奉仕」、青少年に植え付けていくことが「青少年奉仕」であると劔田ガバナーは言っておられます。また、こうしたロータリアンとしての人格を形成する唯一の場所が例会場だと信じております。とも言われております。このような考え方から劔田ガバナーの信条は「最も出席するもの最も報いられる」です。

私もこのような考え方に共感を抱くものです。

また劔田ガバナーはこうも言われております。ロータリーは寄付団体でもなければ慈善団体でもない。

ところがR Iはどうもこのような方向に向かっているように思えます。人頭分担金を16—17年度は60ドル、毎年4ドルずつ挙げていき19—20年度には68ドルになります。

日本全体では7億円近い金額になります。またR財団への寄付も強く求められてきます。これらをどのように理解するかは個々に違いがあると思われませんが、抵抗感を抱く人が多くあっても不思議でないと思っております。財団への寄付をお願いする立場にありますが心苦しく感じております。

ここで各務原ロータリーの歴史に触れたいと思えます。それは歴史に学べ、歴史が証明していると思うからです。

各務原ロータリークラブも過去には70名ほどの会員を擁しておりました。平成の初めの頃の話です。ところが今では20名程になっておりますがこれは奇跡と言ってもいいでしょう。なぜなら毎年4~5名の退会者が続きました。15年も経過すれば消滅していても不思議ではなかったからです。退会者が続いている間は新入会員は当然ありません。ではなぜ退会者が続出したかを考えてみたいと思えます。色々な理由がありますが最も大きな理由はクラブ内の人間関係でしょう。仲良しグループが出来てグループ間の隔たりができる。どのグループにも属さない人は疎外感を抱き居場所がなくなる。など例会に出席しても楽しくない、従って

意欲が湧かない。こんなことならいっそ退会ということになります。また理事会などで決定したことでも長老の一言で覆ってしまう。などクラブ運営上の理由が最大でしょう。

何をするにしてもこのような状態では一致協力して取り組めない。もう一つの理由は活動の内容でしょう。単発的には色々地域に奉仕活動をしてきましたが継続して地域社会に奉仕活動をして汗を流すことが少なかったように思います。私は地域社会に密着した、地域の人たちを巻き込んだ活動を継続していくことがロータリーを理解してもらううえで重要ではないかと思っております。

グループ全体である目標に向かって一致協力して向かっていくことは心地よいものですし、達成した時の喜びも大きなものがあると思います。

このような経験から兎に角例会は明るく、楽しくなくてははいけません。そして一部の人の想いではなく全員が理解し共有していることが必要です。

どのクラブも会員の増強が課題になっております。2630地区の1クラブの平均会員数は40名です。これは全国平均の39名と変わりません。

RIの方針は50名以下のクラブは純増1名、50名以上のクラブは2名以上としておりますが長期目標としてこの平均人数を参考にしてもらうのを提案したいと思います。

冒頭申し上げましたがこうして若い会員が随行してくれます。クラブの活性化はこうした若い会員の行動力とアイデアに大いに期待しております。

私自身はゴルフは下手で自称3桁会の会長とっておりますが若い会員と共に楽しむことにしました。

年齢差や上手、下手はさておきクラブ内の融和や親睦を図る上で大切なことだと思った次第です。

拙い話でしたがご清聴いただきましてありがとうございます御座いました。

***出席委員会**

会員数29名、本日の22名出席です。

***ニコボックス委員会**

- ・東海北陸道グループガバナー補佐 横山隆一郎様
- ・会長・副会長・幹事

今日は第1例会で、ガバナー補佐をお迎えしており

ます。横山ガバナー補佐よろしく申し上げます。

・小澤重忠君

東海北陸道グループガバナー補佐横山隆一郎様のご来場を歓迎して。

23名のご投函ありがとうございました。

***幹事報告**

国際青少年交換2017~2018年夏期派遣学生の募集案内を配布させていただきます。対象の方が見えましたら早目のご対応をお願い致します。

来週の21日木曜日は休会になっておりますが、特別役員会の予定となっております。

<次例会の案内>

第1867回 2016年8月4日(木)

C. A新年度活動方針 / 担当: 会長・幹事